

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	流通科学大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	リュウツウカガクダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	キャリア実習
	学部・研究科等名	全学部(商学部、経済学部、人間社会学部)
	担当教職員名・役職	人間社会学部 人間健康学科 准教授 中山一郎人間社会学部 人間健康学科 講師 前川明
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	170
	受入企業等数	67
	受入企業等名	明石市役所、アデコ、SMBC日興証券、エム・シーシー食品、岡村製作所、加藤産業、ギャップジャパン、KCJ GROUP(キッザニア甲子園)、神戸新聞社、神戸信用金庫、JTB西日本、新神戸ホールディング(ANAクラウンプラザホテル神戸)、センコー、ソニー生命保険、ダイネンヒューマンplus(はりまっち)、トッパン・フォームズ、日新信用金庫、阪急オアシス、三菱UFJモルガン・スタンレー、読売旅行、ラジオ関西 他(法人格省略、50音順)
	インターンシップの分類	6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ、7.中小企業でのインターンシップ、8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	営業同行や事務業務などの実習体験の他、実習先により実習内容がワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワークなどの場合がある。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している、6.当該インターンシップは、選択科目として実施している、7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している、8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次以上
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本科目は教養教育科目として実施し、配当年次は3年次、前期に事前学習、夏季休暇中に実習、後期開始直前に事後学習を実施している。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている、2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている、3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている、4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている、3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	・インターンシップに行く目的・業界、企業研究・マナー研修・インターンシップの目標設定 以上の内容を事前学習で行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習で設定した目標の振り返り、インターンシップに参加した上での今後の目標設定、以上の内容の発表を事後学習で行っている。実習先が小売業などの場合、店頭での接客のチェックや実習先の成果発表会への参加によりモニタリングを実施している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前の目標設定をした内容と実習日誌の内容で、学生の意識や行動の変容の確認を行っている。
西	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間は実習先によって異なる。

要素⑤	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実施期間は実習先によって異なる。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習日誌に実習先の担当者の評価とコメントの記入を依頼している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	キャリア実習概要説明⇒ https://www.umds.ac.jp/career/support/job-training.html キャリア実習シラバス⇒ https://www.umds.ac.jp/syllabus/17/511.pdf
問い合わせ先	大学等名	流通科学大学
	担当部署名	教務部
	担当者役職名	
	担当者氏名	近井義行
	電話番号	078-794-3557
	メールアドレス	Yoshiyuki_Chikai@red.umds.ac.jp